

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 近江薫風会
(ユニット名)	スマイルグループホーム
所在地 (県・市町村名)	滋賀県米原市寺倉603番地の3
記入者名 (管理者)	一谷 美恵
記入日	平成 19年 3月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

部分は外部評価との共通評価項目です )

↓  
取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域の方が施設を地域の社会資源として活用できるようにするとともに、地域の方が施設を利用することによりご利用者が地域の人と日常的に交流を図る。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	定期的にケアの振り返りの意味合いも込め、話し合いの場を設けて更なる統一が図れるようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後、施設を利用し、地域住民の方々に対する研修会を実施し、高齢者福祉や認知症に対する理解を深める活動を通じて、ご利用者が地域に暮らし続ける必要を理解していただくよう務める。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後、老人会との交流も計画する予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる	湖北介護サービス事業者協議会総会で、理事長が講演 を実施。(4月19日) 米原市社会福祉協議会介護者の集いを実施予定。(5月 25日)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る	自己評価は職員全員で行い、各自のケアの振り返りと なる様に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	実際の入居者や家族の希望等情報収集し、それについ て管理者、職員が話し合いの内容を共有し、ご利用者 の方の日常生活改善に生かせる様にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に組み 組んでいる	米原市以外（長浜市・湖北町・彦根市）とも申請・契 約するとともに、随時訪問し情報の共有化に努めてい る。 施設長が湖北介護サービス事業者協議会の役員となっ ており、振興局などに頻繁に出向いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	どちらかと言えば、事業や制度について十分な理解は 出来ていない。	○	施設内での勉強会を実施する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し知識を深めている。 同時に、虐待が起こらない環境づくりと、看過される ことがないよう注意喚起している。	○	当会の安全対策・衛生委員会で検討を行い、施設内 での勉強会を実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけて説明を行い、状態変化の時のことも踏まえて十分に話を行っている。 また、契約の際には必ず施設を見て頂き納得された上で、契約締結を行うこととしている。(納得のいかれるまで繰り返し見学・説明を行っている。)</p>	○	<p>ご入居後も随時、相談に応じていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全職員が常にご利用者の方の言葉・表情・行動から変化を読み取ることに心がけ、記録に残し、周知・対応を行っている。</p>	○	<p>ご利用者の意見・不満・苦情を職員全員が把握して、今後どうしていくか話し合いの場を設ける。 また、ご利用者の方や家族からの意見が聞けるように意見箱などの設置を行う。</p>
14	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身の変化時には電話にて報告し、面会時には最近の様子を伝えていくと共に、月一回写真付きで日常の様子を報告している。 また、金銭管理については、お小遣いで使用される分については、毎月領収書のコピーを、預かり通帳については四半期毎にコピーを家族に送付している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応の機関を設け、廊下に明示すると共にご家族へ手紙にて伝えている。 また、運営推進会議のメンバーに利用者2名、ご家族1名の方にご参加いただいております、その中でも聞き取りを実施している。</p>	○	<p>意見・不満を言って頂けるような関係づくりに努める。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回ミーティングの機会を持ち、意見交換・情報の共有化・意識の統一を図っている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者本位の生活を目指し、ご利用者の生活ペースを基に職員が動いている。 勤務時間帯に関しても、職員会議を通じ常に情報の収集に努め、柔軟に対応できるような体制をとっている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動でのご利用者のダメージを最小限にするために、ディサービスとの交流を積極的に行い、ディサービス職員とも顔なじみの関係を作っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員に外部での研修への参加が出来るようにしている。	○  トレーニー制度の導入。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北介護サービス事業者協議会で施設長が監事を務めるほか、所長および管理者はグループホーム部会に所属し、情報・意見交換を行っている。 また、湖北地域以外でもネットワークづくりを積極的に持ち、質の向上を目指している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	オンオフの切り替えができるよう、残業ゼロの環境づくりを目指している。 職務上の悩み事あれば、個人面談や交流・親睦の場をつくり相談に応じている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談の実施とチャレンジシートの活用にて、各自の目標を明確化しひとり一人が向上出来るように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず本人に会って情報収集し、職員全体で安心してもらえるよう関係づくりを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めておられること、悩み事などをゆっくり時間をかけて聞くようにしている。 電話での相談も随時応じている。 内容は、記録に残し全員で共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご利用希望者共に見学に来てもらえるようお話し、ご相談に応じられるようにしている。 ご入居まで、デイサービスのご利用も選択肢として提示している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用希望者の状況・希望に合わ体験入居も実施している。 また、ご家族に出来る限り面会にきてもらえる様にし、安心感をもってもらえるようにしている。 デイサービスの利用と併用して申し込みをお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯、畑仕事など日常生活でご利用者の方が出来る事を見つけ出し、職員が支えることにより日常生活での活動・参加を作り出すとともに、ご利用者の方から職員が教えてもらう場面もあり、互いに助け合える関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こまめにご家族と連絡を取り、ご利用者の交野の状態を伝えると共に、ご家族からの情報も得られるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者の方とご家族との関係を職員は把握して、支援できるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡を積極的に推し進めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の場面でもお互いが助け合える場面を多く作るとともに、行事の機会を作り、皆で一緒に楽しめる様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方を訪問し、会っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築くと共に、日常の会話から読み取る様努めケアプランに反映できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握を行い、現在の生活に活かせるように努めている。	○	生い立ちから今までの生活をご利用者やご家族から聴き取り、日常生活の場面で活かせる活動を生み出し、ご利用者の方が主体的に参加でき、精神的にも安定できる取り組みをしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方が職員全体に把握できるよう、介護記録を使用し一日の流れをつかみやすいように努めている。	○	ICFやセンター方式を利用し、ご利用者の方の生活全体の徹底した把握を行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との会話、家族からの情報に基づいて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者・管理者・スタッフにてモニタリングを行い、状況変化に応じた見直しを行っている。	○	定期的にご利用者やご家族からのモニタリングを行い、介護計画の見直しを徹底していくことに努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に具体的な介護記録に残し、全職員が確認できるようにしている。また、定期的に介護記録の見直しを行っている。	○	個別記録の蓄積ができ、ご利用者の生活での変化を追える記録の取り方を作り出すとともに、記録の電子化を図り、援助の効果・効率を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスにも自由に行き来出来るようにし、連携支援が図れる態勢作りを行っている。 (出来るだけ、多勢の方々たちと交流を図れるように)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺住民への働きかけや、ボランティアへの協力を呼びかけている。 警察には、定期的に訪問してもらい、必要時の支援を依頼している。 防火訓練についても消防署の方から出向いていただき年1回は総合訓練している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じてバックアップ施設へのサービス利用の支援を実施した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに出向いたり、来ていただいて総合的なケアマネジメントについての協調態勢を取っている。 また、地域包括支援センター職員も運営推進会議メンバーに入り、情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診や、以前からのかかりつけ医にご家族同行で受診頂くなど、ご利用者・ご家族共に安心できる態勢を作っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域認知症を考えるネットワークに参加している。	○	地域の認知症専門医と関係を築き、ご利用者の治療をスムーズにするとともに、職員の相談に乗っていただける態勢を確立する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、ご利用者の方の状態変化にも常に対応出来るようにしている。 また、夜間でも相談・報告の出来る体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族・医療機関と頻繁に連絡を取り合い、職員も見舞い、早期に退院できる態勢作りを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に向けての本人の意向、家族の思いを話している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃からご利用者の方の何気ない言葉にも耳を傾け、職員間で記録に残している。 急変時には、早期に対応できるように医療機関とも密に情報を共有している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換にて共有を図ることで、ダメージが最小限になるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の方から希望で呼んでほしい名前と呼んでいる。 記録等の個人情報はご利用者の目に付く所には置かないようにしている。 施錠は内側からしか出来ないような作りとなっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に声をかけ、ご利用者の希望を引き出すことや、自己決定できる場面を心がけている。 (飲み物・入浴・誕生会)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かいスケジュールは作らず、ご利用者の状況・様子を見ながら一日の流れを一緒に作っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事・外出時には、化粧・おしゃれを楽しんでもらえる様働きかけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ時間に、同じものを食することは勿論、ご利用者の料理の得意分野を把握し、一緒に調理を行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙される方には、安全に喫煙できるように場を設けている。 その他嗜好品もできるだけ要望に添うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄間隔を把握し、トイレ誘導行っている。また、随時個々に応じた排泄用具・パットの種類の見直し等もおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず声かけし希望に応じている（毎日の入浴、サービス棟一般浴での入浴・足浴も可能）。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に応じた寝具にて、居室の温度調節にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事・外出等も入居者の希望を取り入れて計画を立てている。	○	出来るだけ、日常的な買い物や散歩などを実施し、以前からの日常生活が継続できる支援を行う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の希望あれば安全に保管できるように、ご利用者各自に応じて工夫している。通帳預かりをしている方も、本人の希望で、自由に現金できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・近くのコンビニへの買い物も行っている。	○	天気の良い日には、多方面に散歩・ドダイブ等で積極的に外へ行くようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昼食・お茶を飲み、レストランなどに希望を募って行ける機会を作っている。	○	ご利用者の希望や意見を聞きながら機会を設けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも出来るようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めず、いつでも面会可能。ご面会者もご希望時には一緒に食事が出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルにより周知の徹底や、委員会を設け緊急時を除く身体的拘束排除の絶無を徹底している。	○	勉強会の実施で、知識を深めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。 建物の外からの施錠は一切設けていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室・トイレに入るときは、必ずノックをしてから入るようにしている。 居室不在時のご利用者に声を掛けてから入っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の方の状況に応じて対応し、随時検討を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書にて再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救急講習を受講している。	○	年に一度は救急講習を受講することとしている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・非難経路の確認を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化についてもご家族との連絡を密に取り合い、ご家族の理解が得られる態勢作りを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、血圧測定・検温を実施し、日常の様子を十分知った上で急変時の早期発見に繋がるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・要領を明示し、服薬介助のマニュアルをもとに、十分な服薬確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養バランスの摂れた食事の提供・水分量の把握・散歩の実施を行っている。	○	雨の日など外に出られないときは、体操などを取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、必要性の説明を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を記入し、健康管理に繋げて行っている。	○	個々に応じて食べやすい様に工夫し、摂取状況の把握に努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は義務付けし、感染予防のマニュアルに基づいて実施している。 感染防止のため、トイレ等感染しやすい場所は消毒を行っている。	○	勉強会の実施で、知識を深めて行く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間、調理器具は消毒を行い、食器乾燥機にて熱風消毒している。 食材は、毎日配達のものを使用しているため新鮮なものをその日のうちに使い切ることが出来る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に清潔を保ち、観葉植物など緑のものを置き明るくしている。 中庭には芝生を植え、緑と親しめる環境を醸成している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ使用後は、汚れ・流し忘れがないかチェックしあればその都度掃除するように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、個別の空間が持てるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使ってこられたもの・馴染みのあるものを持ち込んでもらえるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機・加湿器を設置し、常に換気・湿度にも注意を払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	バリアフリーで段差がなく動きやすい環境となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	電気・スイッチ・ボタン操作など、口頭・説明と同時に解りやすく紙に書き理解しやすくなるよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の南側は広い畑になっており、季節の収穫ができるほか、天気の良い日はテラスでの休憩を行っている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご利用者の方が、日々の暮らしを安全・快適に過ごしていただくために、別添のとおり携帯電話を用いた見守りシステムを開発・導入した。  
(当施設では外からの鍵を設けていない。夜間などに徘徊等で施設の外へご利用者が出られた場合には、軒下とフェンスに設置したセンサーがその情報を感知、携帯電話に自動通報し、ご利用者の方の安全確保を図るもの。本システムはナースコールも同様に自動通報を行うもので、当会・NTTドコモ、総合警備保障、アイホンとで開発した日本初のシステム。)
- ・施設内のすべての部屋に火災センサーを設けており、万一のときは米原市消防本部および総合警備保障との連携、速やかな対応が図れる。
- ・夜間は2名体制で運用し、機械システムと合わせご利用者の安全を確保している。  
(職員1名夜勤、1名は米原市シルバー人材センターに夜間補助職員として委託、当施設のある寺倉地区の3名の方がローテーションで対応)
- ・朝食、夕食については利用者の方と介護職員と一緒に食事を作ることとしている。昼食については、一日の大半が食事作りに費やすということではなく、野菜づくりのや外出、レクリエーションや趣味などの時間に宛てるほうが良いとの考えにより当地域の老舗旅館の給食による提供としている。